

千葉県における『春省武：RA-260』 の現地試作の紹介

雪印種苗(株)
東京統括支店
東京園芸営業課

1. はじめに

千葉県のダイコン作付面積は3,140haであり、全国でも有数のダイコン産地です。その中で春大根の占める割合は大きく1,250haの作付になります。今回は弊社新品种の春ダイコン「春省武(はるしょうぶ、試作番号：RA-260)」につきまして現地での試作・栽培結果をご報告いたします。

2. 銚子地区

銚子地区は千葉県の東部に位置し、ダイコンの作付面積は周年で1,071ha(平成21年度野菜作付統計)になります。ご紹介する「春省武」は当地で導入されている10月下~12月播種の弊社品種「春風太」の後半の作型で見えていただいております。「春風太」は小葉で作りやすい、低温化でも伸長性、肥大性に優れている等で好評を得ています。しかし一方で「春風太」の後半作型となる12月播種では年次により長根になりやすいと指摘されています。そこで「春省武」を12月播種で複数年試作していただいたところ、「春風太」に比べ根長が程よく仕上がるため、非常に抜きやすく、作業効率が良いとの感想を頂いています。



▲ 銚子地区での「春省武」栽培風景



▲ 箱詰めされた「春省武」



▲ 銚子地区の灯台印さわやか大根

3. 袖ヶ浦地区、市原地区

袖ヶ浦地区および、市原、姉崎地区は千葉県中央部の西部に位置し、レタス、トマトの施設園芸やサトイモ、ダイコン、落花生などの野菜の栽培が盛んに行われている地区です。その中でダイコンの作付面積は総計約186haで千葉県の中でも主要産地になっています。春ダイコンについては当地区でも弊社の「春風太」を長年に亘りご利用いただいております。安定した品質と収量性が評価されています。しかし、銚子地区と同様に12月播種で根長が長くなる点が指摘されていたため、「春省武」の試験栽培を12月播種にて複数年試作を行ってきました。「春風太」と同様の形状ではありますが、12月播種で丁度良い長さとなり、「春風太」

をカバーする品種として位置づけていただきました。非常に作業性が良いとの評価も頂いています。

4. その他

今回、ご報告しました産地からは「春省武」の根長の程よい長さ、収穫作業の効率の良さについて好評を頂いております。その他にもトンネルやマルチべたがけ栽培で問題となる空洞症やす入り症状の発生が少ない傾向にあり、また近年、各産地で問題となっている根黒変症にもやや強めの特徴を持っている品種です。千葉県の作型では「春風太」と同様に小葉であり、晩抽性であることを利用し、トンネル栽培の特に12月播種に適する品種です。トンネル栽培では11月播種の「春風太」、

12月播種の「春省武」と使い分けていただき、ご利用をお願いしたいと思っております。

5. さいごに

春収穫のダイコンは市場の相場が他の時期に比べると比較的安定していますので収量の安定化が収益性に繋がります。今回ご紹介しました、収穫労力が軽減できる新品种の「春省武」と長年の栽培実績を持つ「春風太」をご使用いただき、安定的に収量を上げていただきたいと思っております。

今後とも雪印種苗のダイコンをはじめとする野菜品種を宜しくお願い申し上げます。



▲ 洗浄作業後の「春省武」